



農委だより 常総

平成27年1月1日発行
第 18 号

〒303-8501
茨城県常総市水海道諏訪町3222番地3
電話0297-23-2111(代表)

発行／常総市農業委員会

編集／農委だより常総編集委員会



農業委員会では、耕作放棄地
解消の切り札として青パパイヤ
を栽培

年頭のごあいさつ



農業委員会 会長
倉持創一

新年あけましておめでとうござ
います。

皆様におかれましては、お健やか
に新年を迎えられたことと心から
お喜び申し上げます。

さて、農業を取り巻く環境は米
価の暴落、高齢化や、担い手不足
原発による風評被害など、農業者
の生産意欲は後退の一途をたどつ
ています。

しかし、食料は国の安全、経済
の成長を維持するためにも重要で
す。TPP交渉や農地中間管理機
構による農地の集積、耕作放棄地
解消、新規就農に向けた施策等、
停滞した農業を活性化させる事業
の展開により、地域農業の環境が
大きく変わろうとしております。

このような中、農業委員会とし
ても農業者唯一の代表機関として
農業の発展振興に向け一丸となつ
てより一層尽力してまいります。
今後とも皆様方のご支援、ご協力
を賜りますようよろしくお願いし
ます。

結びに、皆様方のご健康とご多
幸を祈念申し上げます。新年の
ご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしく
お願いいたします

農業委員

(議席順)

- 岡野孝一
- 小磯重治
- 菊地義男
- 山木正男
- 田崎松男
- 門井貢
- 菊地まち子
- 喜見山明
- 渡辺勝一
- 飯田真由美
- 石塚寛一
- 沼尻隆志
- 斉藤洋一郎
- 内海浩之
- 中島清
- 橋本武夫
- 田村匡史
- 渡邊政一
- 横島文雄
- 山野井喜仁
- 和田勇
- 鈴木将之
- 稲葉元一
- 増田亮
- 倉金一廣
- 倉持創一

地域の担い手

三妻地区 沼尻喜紘さん

我が家は水稲、麦を生産する専業農家です。

茨城県立農業大学校を卒業後すぐに就農し、15年農業に携わってきましたが、農業を取巻く環境は年々悪くなっていると感じています。

ここ数年は、毎年起きていれる自然大災害も、いつ私たちの地域で起こるか不安ですし、米価格も下降する一方で、決して恵まれているとは言えない状況です。

これからの農業は、生産コストの削減はもちろん、農地の集約や機械の導入で作業効率を上げて、より良い品質の物をより多く生産していかなくてはならないと思っています。

水海道地区でも農業後継者の会が発足し、交流が今まで以上に盛んになり、情報交換の場も増え、知識、技術の勉強ができる機会も多くなりました。農業後継者不足といわ

紹介農業委員



和田 勇 委員

今回紹介するのは三妻地区の沼尻君です。両親と共に農業専業農家であり、これから益々厳しくなる農業ですが、意欲をもって頑張っている方です。

中、少人数ではあります。が、このような交流を通じ、お互いに協力しながら切磋琢磨し、地域農業の発展に貢献できればと思います。

まだ未熟者で勉強の日々ですが、地域農業の役に立てるように努力していきたいと思っています。



沼尻 喜紘 さん

消費者とつなごう

豊岡地区 石塚千帆さん

我が家の子供達はご飯が大好きです。部活をしていても、おにぎりをもつていきますが、本当においしいお米は、塩だけでにぎってもとても美味しく、大切なエネルギー源です。

家は農家ではありませんが、いつも新鮮で水々しい野菜を、近所からいただき、安心して食べることが出来ます。スーパーに行ってもこの地域の物が置かれており、やはり安心して食べることが出来ます。

私はこの地域に生まれ育ち、ずっとその食の良い環境の中で生活してきました。子供の頃は、その大切さにあまり気が付きませんでした。子供を産み、そのありがたさに改めて気づくことができました。「子供に安心して食べさせられる物」それは私が子供の頃から食べてきた物だと。

私の親戚でも農家をやっており若い後継者が研究をしながら毎日頑張っています。そ

紹介農業委員



中島 清 委員

7人家族の石塚さんです。親子とても仲良く、美容室の仕事、子育てにいつも笑顔で頑張っています。

このような若い人たちが増え、これからも安心して食べられる物を作ってくださいる事を心から願いたいと思います。そして子供達が大人になった時にその大切さに気付き感謝する日が来ることを楽しみにしています。



石塚 千帆 さん

新任農業委員紹介

小磯 重治 委員

土地改良区から推薦を受け農業委員を務めさせていたいただきます。生産調整の為、休耕転作等々の努力をしてきましたが、平成26年度は米価の大幅(1万円)割れに直面してしまいました。地域にあった課題情報を把握し農政に反映させる努力をして参りたいと思いますので、皆様方のご指導をよろしくお願い致します。



菊地 まち子 委員

議会推薦により農業委員に就任いたしました。改めて日本の農業を考えてみますと、食文化と共に歩んできたと思えます。地域により異なりますが、改革によるデメリットも多々あり、そんな農家の皆様の声を聞き女性農業委員として頑張る覚悟でございます。よろしくお願致します。



青パイヤ栽培の経過及び販売

農業委員会では今後、耕作放棄地を解消する際、何の農作物の栽培が適しているか模索してきました。そこで常総市でもまだ珍しい青パイヤを実験的に栽培（農委だより第17号に掲載）しました。

その後、収穫時期となり大きく実った青パイヤを見て実感したのは、手間があまりかからず、熱帯性の植物のため寒さには強くないが、夏の暑さで一気に大きくなることがわかりました。

農業委員会では、10月にあすなるの里で行われた「常総市ふるさと秋まつり」や、11月の石下庁舎周辺で行われた「常総ふるさとまつり」で



あすなるの里での販売風景

も販売しました。

市民の方も珍しい野菜の食べ方も分らず、購入にはためらいもありましたが、サンプルの展示やサラダやきんぴらのレシピを配布するなど、青パイヤのPRに努めました。

また、青パイヤをお茶にする試みもしました。このお茶も市民の方には馴染みがありませんでしたが、健康に良いとのPRが功を奏し、好評でした。

今後は耕作放棄地解消後の保全に活用できるよう研究してまいります。

この取組は、茨城県農業会議の取材により、11月7日付け全国農業新聞の茨城版でも紹介されました。



オクラと雪のお城

かかしコンテストで農業委員会会長賞を授与

11月9日、石下庁舎周辺において、「常総ふるさとまつり」が行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが大勢の方が訪れ、ステージにおいては恒例のかかしコンテストの表彰式が行われました。

石下庁舎周辺には、10月25日より48体のかかしが飾られ、市民の目を楽しませていただきましたが、その中でも、ひとときわ輝いていたのは、農業委員会会長賞を受賞された、常総市第4保育所の「オクラと雪のお城」で、農業委員会職務代理の倉金一廣氏から賞状の授与がありました。受賞された皆様、おめでとうございます。

賞状を授与する倉金代理



賞状を授与する倉金代理

平成25年 主要業務実績

農地移動の実態 (1月~12月)

条 項 別	件数	面積(m ²)
3 条	所有権移転	95 274,491
	賃貸借	5 20,023
	使用貸借	9 54,581
	届 出	131 961,544
4 条	許 可	24 12,660
	届 出	4 2,005
5 条	許 可	122 152,116
	届 出	17 8,084
4・5条制限除外	19	11,505
大臣許可	0	0
18条解約	100	265,727
証 明	非農地証明	3 4,556
	転用事実証明	0 0
	現況証明	14 17,721
農業経営基盤強化	234	1,173,510

平成25年 農用地利用集積事業

(1月~12月)

地 区 別	面積(m ²)	地 区 別	面積(m ²)
水 海 道	15,617	内 守 谷	24,091
豊 岡	101,072	菅 生	46,832
菅 原	105,784	大 塚 戸	10,269
大 花 羽	242,642	石 下	2,749
三 妻	167,509	豊 田	27,257
五 箇	44,456	玉	42,581
大 生	191,691	岡 田	39,512
坂 手	30,749	飯 沼	80,699
計		1,173,510	
田畑別面積			
田	806,	738	m ²
畑	366,	772	m ²
計	1,173,	510	m ²

先進地視察研修を実施

11月13日から14日にかけて、山形県寒河江市農業委員会に、耕作放棄地解消の先進地視察研修を実施しました。

寒河江市は平成23年「耕作放棄地再生プロジェクト」を立ち上げ、農業委員自ら耕作放棄地の再生に取り組んでいます。そこでは学校給食用のジャガイモや地域特産である「青菜漬」の青菜を作付し、保育園の子供たちによるジャガイモ収穫体験も実施するなど、再生事業モデル事例として再生地の拡大に努めているとのこと。

農業委員会としてもこの取組を参考にし、耕作放棄地解消に努力してまいります。



寒河江市での研修風景

農業者年金に加入しましょう

農業経営と老後の生活がっちりサポートします

農業者年金は、少子高齢化に即応した農業者の公的年金で、積立方式の安定した制度です。

収めた保険料が全額社会保険料控除になるなど、税制面での優遇措置があります。また、認定農業者など一定の条件を満たす農業者には保険料の助成もあります。

次の3つの要件を満たす方ならどなたでも加入できます。配偶者や後継者など家族農業従事者の方も安心してご加入いただけます。

加入条件

- ① 60歳未満の方
- ② 年間60日以上農業に従事
- ③ 国民年金第1号被保険者

詳しくはお近くの農業委員又は農業委員会事務局までお問合せください。

農家訪問



水稲及び胡瓜の複合経営をする中川さんを訪問しました。

中川さんは、両親や祖父母の背中を見て17年前に就農したそうで、農作物栽培の知識が身に付くにつれ、難しく、面白くなるのが農業だと感じているとのこと。近年は夏の猛暑、冬の寒波など予期せぬ自然災害も増えており、家族一丸となつて準備、対策を講じて被害を最小限に食い止めているとのこと。胡瓜は年3作で出荷、夏の暑い時期のハウス作業が大変とのことですが、妻と両親の

紹介農業委員



石下地区でも専業農家は数件になつてしまい、その中でも将来希望にあふれ、がんばっている中川さんを訪問しました。

4人で切り盛りしているそうです。気を付けている点は、日々の観察において朝昼夜で姿が変化し、樹勢、栄養のバランス、病虫害の発生など早期発見に努めているそうです。ウリ科の植物で、根からの連作障害となる線虫が卵を産むと収穫に影響するので対策として、米ぬかを用いて太陽熱消毒し、農薬による土壌消毒は避け、減農薬、有機質肥料主体で栽培しているそうです。今後は、若手農業者との交流を積極的に行い、地域の担い手として、地域の期待に応え、次世代に農業は魅力のある仕事である様、自分自身に

誇りに思い、日々一生懸命精進していきたいと話してくれました。

編集後記

改選後、新編集委員により作られた農委だより常総18号です。今回は、青パイヤの特集(表紙)となりました。

また、連載となつております地域の担い手、消費者として思うこと及び農家訪問についても、農家に密着した記事をお届けできるよう取材しました。

なお、改選により新しくなされた農業委員を2回にわたりに連載として紹介します。今後とも、皆様に喜ばれる記事をお届けできるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

全国農業新聞

発行日 毎週金曜日
購読料 月額六百円
申込みはお早めに

営農と暮らしに役立つ